

女性LINE相談事業【小平市】

個別事業費	2,508 千円
交付金額	1,254 千円

地域の実情と課題

令和2年度実施の市民意識・事業所実態調査の中で、「小平市女性相談室」の認知度を聞いたところ、11.2%と認知度が低い状況が見受けられた。相談経験の有無を聞いた設問では、42.2%の女性が「どこにも相談しなかった」と答えている。これにより困難を抱えた女性のための相談窓口が知られていない現状が読み取れる。また、小平市女性相談の相談実績からは、相談者は50代以上の女性が多く、特に若い世代(10~40代)の女性が相談につながりにくいこともわかっている。

事業の特徴

LINEを活用したSNS相談を、週2回、通年で実施し、これまで悩みや困難をかかえつつも相談につながらなかった女性を支援する体制を整え、相談内容によっては適切な相談窓口につなぐ等の対応をし、困難を抱える女性を広く支援した。令和6年度は水曜日と金曜日に実施していたが、他自治体や小平市の女性相談(電話・面接)の曜日別件数を踏まえ、月曜日と木曜日に変更して実施した。また、相談日のつど、相談日であることを知らせるメッセージを一斉に送信し、相談を促した。

事業の効果

小平市で実施している電話・面談での相談者の年代より、若い方(学生を含む)からも相談があった。相談の最後に「気持ち整理できた」などの声をいただいた。相談日の変更や相談日の一斉メッセージ送信により、相談件数が増加した。

目的・目標

相談件数(目標値100件)→175件
令和7年度市民意識調査における「相談したことがある」女性の割合(目標値50%)→32.8%(令和2年度に実施した前回調査とは設問の聞き方を変更している。)

連携団体

必要に応じて、小平市で実施している電話や面談の相談や、福祉事務所、社会福祉協議会等の関係部署を紹介した。また、情報共有等の連携を図った。当市での対応が困難な場合、内閣府や東京都等の相談先を紹介した。

今後の課題

令和7年度に実施した市民意識調査の結果、配慮してほしいこととして、「匿名で相談できること」「同性の相談員がいること」が挙げられている。そのため相談窓口を周知する際には、匿名での相談が可能であること、同性の相談員が多くいることを強く押しだしていく。また、これまで相談したことのない方に相談を促し、さらなる相談件数の増加を目指すため市の子育て支援アプリでの配信や市内学校への相談窓口周知カードの配布等を行い、困難を抱えている人が気軽に相談できるよう、電話・面談だけでなく複数の相談体制を継続する必要がある。

■小平市女性LINE相談

- ・期間: 令和7年4月1日 ~ 令和8年3月31日
- ・相談日時: 毎週月曜・木曜の午後4時から午後8時まで(祝日、年末年始を除く)
- ・相談件数: 175件



相談を周知するためのカード
(公共施設のお手洗い等に配架)